

# インクルーシブな学校をめざして！

～全ての子供たちにとって居場所となる学校に～

学校には多様な子供たちがいます。  
多様な子供たちも「ふろしきで包み込む」ような  
「インクルーシブ（包括的）な学校」をめざします！

「オープンドア」  
の心で！

共生社会で活躍で  
きる人材を育てる

戸田市立芦原小学校



# インクルーシブな学校をめざして！

～全ての子供たちにとって居場所となる学校に～

今学校で課題となっていることは・・・

- ・学校に登校することがつらい児童がいる。
- ・登校できても、教室で過ごすことができない児童がいる。
- ・教室で学習していると、途中でつらくなる児童がいる。

その原因や状況は様々です。

学習のペース  
が早いから  
分からない

興味がない  
とやる気が  
出ないよ

周囲の様子  
が気になっ  
て集中でき  
ない

動きたくて  
むずむずし  
ちゃうんだ

不安な気持  
ちになっ  
ちゃうよ

気持ちの  
コントロールが  
苦手な  
んだ

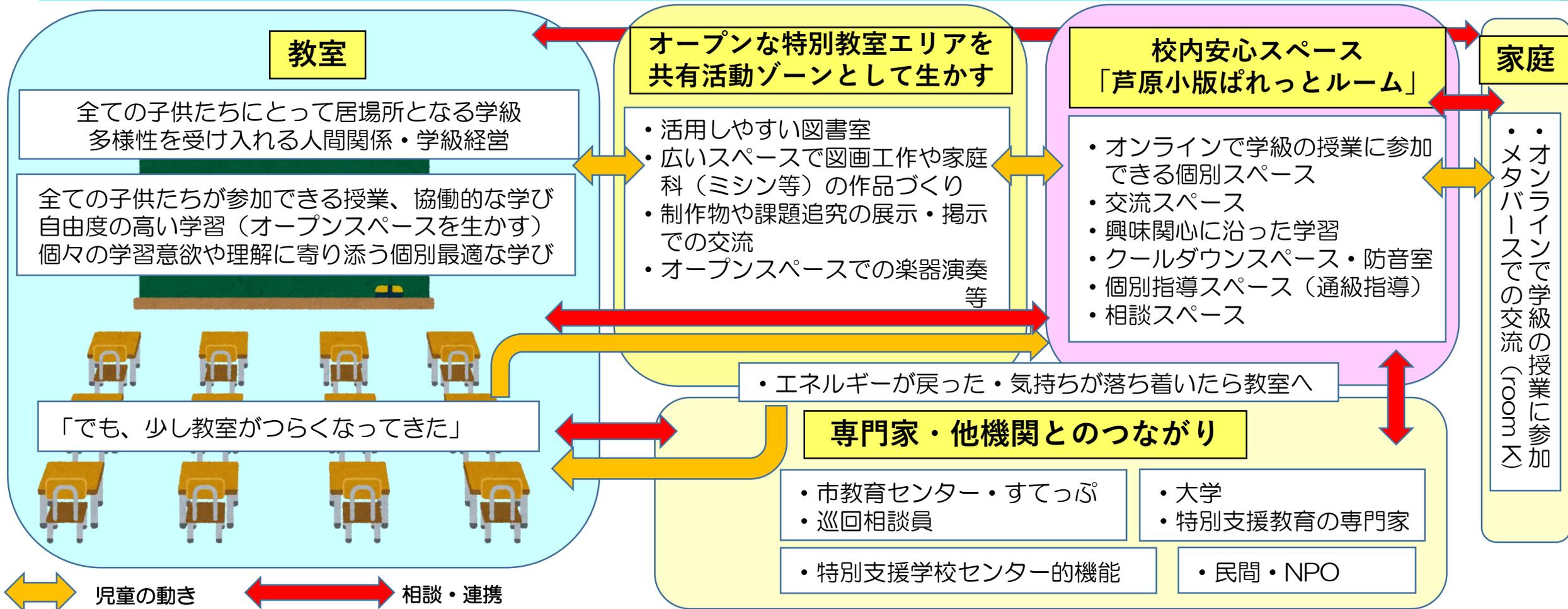
音や匂いが  
気になっ  
ちゃう



学校には多様な子供たちがいます。全ての子供にとって居場所となる学校、多様な子供たちも「ふろしきで包み込む」ような「インクルーシブ（包括的）な学校」をめざします！

# インクルーシブな学校をめざして！

「学校では教室でみんなが同一步調で同じ内容を学ぶことが基本」という「当たり前」を問い直す。



本校は廊下との境目のない教室・特別教室が多いので、出入りやすく、授業においても空間を活用した学習がしやすい。また、フリースペースを有効活用すれば、友達との距離感を意識せずに学習することができる。安心を求めて「ぱれっとルーム」を活用する児童も状況に応じて特別教室エリアを活用することで、教室とのゆるやかな交流を進めることができる。このように、校内安心スペースを活用しながら多様な子どもたちの多様なニーズに柔軟に対応することによって、不登校を未然に防ぐことができるケースが多くなっていくと考える。また、全ての子どもたちにとって学校が居心地のよい場所となる。

# インクルーシブな学校を実現するために

- **新しい学びや学級経営、特別支援教育の専門家による研修**

教職員の研修を充実させることで、インクルーシブ教育について理解を深める。

「全ての子供たちにとって居場所となる学級経営について」

「特別支援教育の視点をもった学級経営・授業づくりとは」

「協働的な学びと個別最適な学びとは」 等

- **専門家等による巡回相談やアドバイザーの実施**

専門家による巡回相談や外部機関からの助言により、校内プロジェクトチームの教員が主体的にインクルーシブ教育を推進したり、よりよい「ぱれっとルーム」の運営を検討したりする体制をつくる。

「適切な個別の支援方法について」「教室の環境、学級経営の状況についての外部評価」

「ぱれっとルームの配置や構造化、運営状況についてのアドバイス」 等

- **「芦原小版ぱれっとルーム」の整備**

「各スペースの構造化のためのパーティションホワイトボード」「ドラムやピアノの演奏も可能な防音室」

「感覚統合トレーニングのためのバランスボールやトランポリン」 等

この実現のために  
御支援をお願いします！

全ての子供たちの居場所となる学級づくり、児童を理解し安心スペースや家庭とのよりよい連携を進めるには教職員の研修と理解が不可欠である。また、教育的ニーズの把握や支援状況への客観的な助言には専門家や外部機関の力も必要である。多様性を受け入れ、全ての子供の居場所となる学校で学んだ子供たちは、これからの共生社会で活躍する人材となることができる。「オープンドア」の心をベースとしたインクルーシブな学校の実現を目指したい。